

## 株主メモ

**決算期** 毎年3月31日  
**定時株主総会** 毎年6月  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所  
(お問い合わせ先)** 〒530-0004  
大阪府大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777 (通話料無料)

**同 取 次 所** 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店  
※株式関係のお手続用紙のご請求は、  
次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。  
電話 (通話料無料)  
0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

**公 告 方 法** 電子公告  
<http://www.faith.co.jp/ir/koukoku/>  
ただし、電子公告による公告をすることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

### 免責条項

本報告書に記載されている将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、様々な要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

## Faith IR Mail フェイスの最新情報をお届けします。

IR関連情報をE-mailで無料配信しております。  
プレスリリースなどを発表とほぼ同時に、月に2-3回程度の頻度で送信申し上げます。



ご登録はこちらから

<http://www.faith.co.jp/ir/mail.html>

## 株式会社フェイス

〒604-8171  
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1井門明治安田生命ビル  
<http://www.faith.co.jp/>

お問い合わせ先  
TEL.075-213-3933 FAX.075-213-3833



# Faith



## 株式会社フェイス 第15期営業のご報告

Faith, Inc. Annual Report  
(2006.4.1~2007.3.31)



次なる飛躍へのシフトアップ

代表取締役社長 平澤 創

## 『マーケットクリエイター』として

今、着信メロディ配信サービス市場は、成熟化が進んでおります。しかし、ブロードバンド化や第3世代通信方式の普及が急速に進む今日の市場環境を私たちは大きなビジネスチャンスと捉えております。それは、フェイスがいつの時代も、市場そのものを新たに創り出すことで企業成長を果たす『マーケットクリエイター』というポジションにいるからです。その基本スタンスは、“人々のライフスタイルを、もっと便利に快適に、そして楽しくしていく「しくみ」を創造していく”ことにあります。そして、求められるモノ・コトを常に生活者の視線で考え、発見し、新たなモデルに組み上げていく力こそがいつの時代も変わらない私たちの強みなのです。着信メロディ配信を可能にする音源再生技術など、フェイスのビジネスは技術に立脚している側面もありますが、技術はあくまでもこうした「しくみ」創造のための手段と位置づけております。フェイスが着信メロディを開発した際も、携帯電話の機種に依存しないサービスを提供することで、新たな市場を創造しました。

当期よりインテル、吉本興業と共同で実証実験を開始したNFRM（権利認証技術）\*では、携帯電話とPCの連携による映像コンテンツ流通の新しい「しくみ」創りを進めております。これは、携帯によるフレキシブルなコンテンツへのアクセス、そしてその権利を認証する多メディアでのハイクオリティなコンテンツの視聴という、映像の新たな楽しみ方の実現を目指しております。

このように、常に『マーケットクリエイター』として新たな市場を開拓し続け、より快適なライフスタイルを提案していくことこそが、私たちの強みであり独自の戦略性でもあるのです。

\*NFRMについては、5ページで詳細をご説明しております。

## 今、求められるグループ強化の意義

当期、フェイスは新会社設立および買収により、急速にグループを拡大しました。この背景には私たちが『マーケットクリエイター』として存在感を発揮し続けるための狙いがあります。現在、コンテンツの利用環境は多様な進化を遂げ、人々のライフスタイルも多様化しております。こうした中で、消費

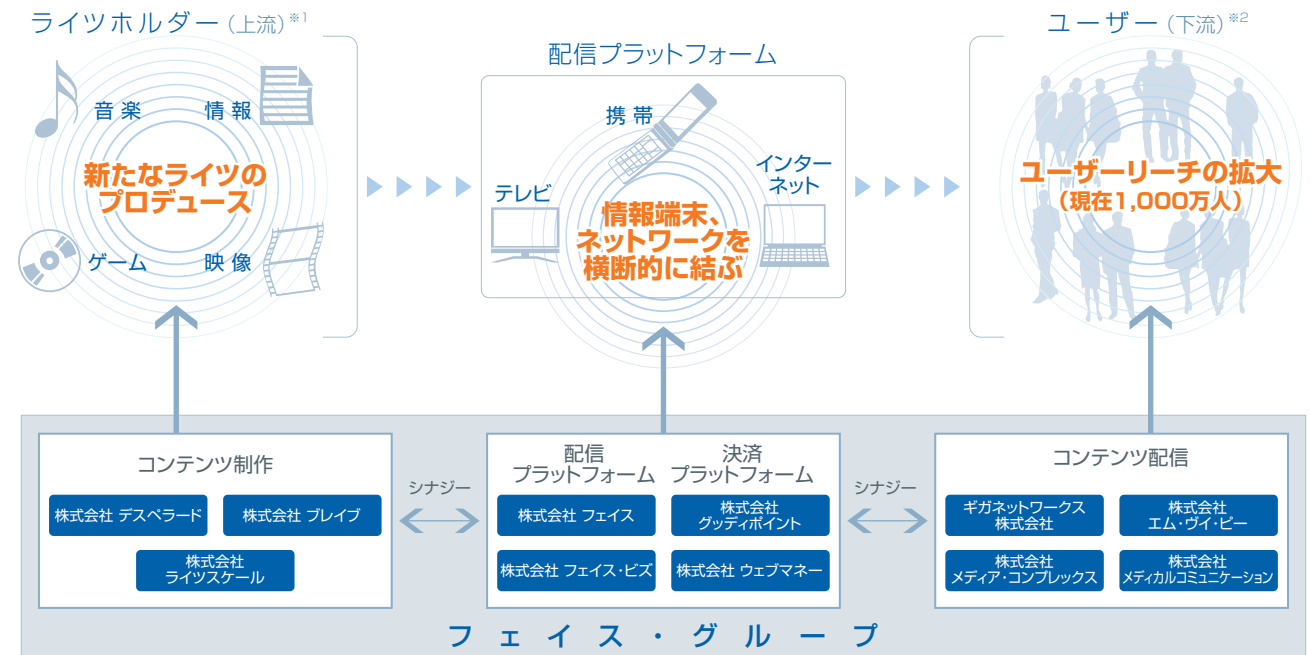
者にとって魅力的な「しくみ」を提供していくためには、コンテンツそのものの制作・プロデュースから配信に至る、言わば流通の「上流」\*1～「下流」\*2を俯瞰し、変化を敏感に感じとり、事業化するフォーメーションが必要となります。そこで、フェイスはコンテンツ市場において、それぞれの分野に特化した企業を設立、買収に加え、提携関係を結ぶことにより、多様な専門性の獲得と事業構築のスピード化を図っております。同時に、それらの企業を有機的に束ねることで、それぞれが専門的な立場からユーザーの視点で発想するビジネスアイデアを数多く、迅速に汲み上げることを目指しております。まさに、このアイデアこそがフェイスの『マーケットクリエイター』としての根幹を成す経営資源となっていきます。フェイスはグループ経営の強化によって、消費者のニーズを迅速に捉え、そこに市場を見出し、ビジネスアイデアをいち早くビジネスモデルとして確立することを可能としております。着信メロディサービスが携帯

電話に新たな価値を創造したように、人々のライフスタイルにまで変化をもたらす、次なる新たな「しくみ」創りに着手しています。より多くの人々に驚きと感動と笑顔を送り届けることを目標に、フェイス・グループはビジネスを展開いたします。

## 当期、事業基盤の拡大・強化に注力

当期は、コンテンツの新しい流通の「しくみ」創りをより加速させるため、グループ経営の推進および有力パートナー企業との連携によるコンテンツの制作プロデュース強化およびユーザーリーチの増大に積極的に取り組みました。海外においては、より成長性の高い分野へ経営資源を集約・最適分配するため、事業再編成を行いました。

## 新しいコンテンツ流通の「しくみ」創りに向けて



## コンテンツ配信事業

### サービス事業

国内においては、ギガネットワークスカパニーの営業権獲得により、当社グループのコンテンツ配信サービスのユーザーリーチは国内最大級の1,000万人規模に拡大しました。また、インテル、吉本興業との協業関係を強化した他、有力企業との共同出資により、主に音楽、映像ソフトの制作プロデュースなどを行う株式会社プレイブを、映画等の映像制作・プロデュース・配給などを行う株式会社デスペラードをそれぞれ設立しました。さらに、オンラインゲーム市場における成功報酬型広告事業に進出するなど、事業基盤の拡大・強化に努めました。海外については、米国、欧州のコンテンツ配信サービス事業の譲渡・売却、MVNO

事業のMBOによる分離独立など、事業の再編成を行いました。この結果、売上高は単体国内着信メロディ配信ソリューション事業が減収となったものの、各種コンテンツ配信事業や営業権取得などによる事業拡大から16,243百万円(前期比50.0%増)となりました。

### ライセンス事業

国内および海外(米国、中国、インド、南米など)において、当社グループの着信音再生技術の需要が堅調に推移しました。一方で、実開発受託型から収益性の高いロイヤリティ型案件を優先し、ライセンス技術の普及による当社グループへのコンテンツサービスの貢献を重点戦略としました。この結果、売上高は2,277百万円(前期比29.0%減)

となりました。

以上の結果、コンテンツ配信事業の売上高は18,521百万円(前期比31.9%増)となりました。営業利益は、国内着信メロディ配信ソリューション事業の減収および国内事業基盤の充実や新マーケット創造のための先行投資負担のため、2,609百万円(前期比35.2%減)となりました。

### 電子マネー事業

国内において、電子決済の主力であるオンラインゲーム、音楽・映像配信の需要が拡大し「WebMoney」の決済金額も好調に伸びました。加えて、インターネット上でサービスを提供する企業への電子マネー発行支援を推進しました。その結果、売上高は22,650百万円(前期比49.9%増)、営業利益は473百万円(前期比295.4%増)となりました。

### その他の事業

その他の事業については、映画など映像作品への製作投資・宣伝・配給、ポイントカードシステム事業収入などにより、売上高は2,955百万円(前期比230.7%増)、営業利益は△178百万円(前期△51百万円)となりました。

以上の結果、当期の業績は単体の国内着信メロディ配信ソリューション事業が減収となったものの、電子マネー事業の高い成長、音楽・映像・コミュニティーサービスなど国内コンテンツ配信サービス事業の拡大、買収や企業提携などによる業容拡大などから、売上高は44,152百万円(前期比47.0%増)となりました。

利益面では、単体国内着信メロディ配信ソリューション事業の減収、新マーケット創造のための先行投資などから、営業利益は1,060百万円(前期比68.7%減)、経常利益は853百万円(前期比75.3%減)となりました。当期純利益は、経常利益の減少に、のれん代の一括償却、MVNO事業の売却にともなう出資金などの減損、投資有価証券評価損の発生などが加わり△1,883百万円(前期1,438百万円)となりました。

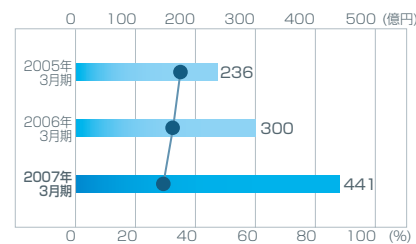
## 次期の見通し

当社グループは、引き続き、「コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組んでまいります。音楽配信、映像配信、オンラインゲームなど、今後大きな成長が見込まれる市場の中で、多様化する利用環境に左右されることなく横断的なサービスとテクノロジーを提供するとともに、魅力的なデジタルコンテンツの制作プロデュースとユーザーリーチの増大により、新たな需要を開拓することで収益機会を拡大していきます。また、ネットワーク上の決済手段として高いシェアを占めている電子マネーの発行も積極的に推進してまいります。一方、海外においては、引き続き、海外子会社、携帯キャリア、情報端末メーカー、コンテンツ権利者などとの連携によって、配信プラットフォーム技術のライセンスの需要を積極的に開拓してまいります。

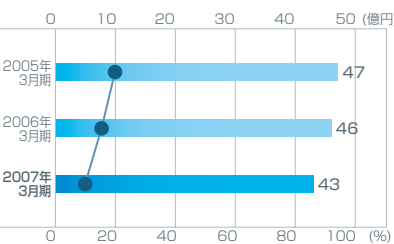
以上の結果、次期の当社グループの売上高は50,000百万円(当期比13.2%増)を予想しております。一方利益面では、引き続き単体国内着信メロディ配信ソリューション事業は減収であるものの、事業拡大、海外事業の再編などにより、経常利益は1,700百万円(当期比99.1%増)、当期純利益は1,300百万円(当期△1,883百万円)を予想しております。

## 財務ハイライト(連結)

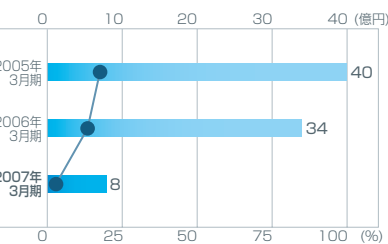
### 売上高/売上高総利益率



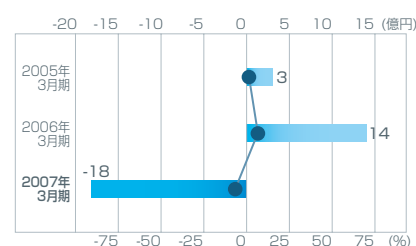
### EBITDA/EBITDA利益率



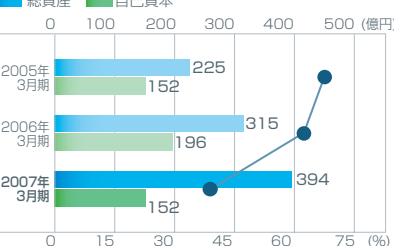
### 経常利益/経常利益率



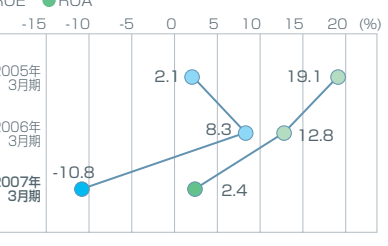
### 当期純利益/当期純利益率



### 総資産/自己資本/自己資本比率



### ROE(自己資本当期純利益率) ROA(総資産経常利益率)



# 携帯電話とパソコンの融合で、コンテンツマーケットの新時代を拓く

NFRM (Near Field Rights Management<sup>®</sup>)は、フェイスが開発した新しいタイプの権利認証技術です。これはFeliCa (非接触ICカード技術)の近距離通信機能を利用したものです。このFeliCaポートを搭載したPCにNFRMアプリケーションをインストールした携帯電話を“かざす”だけで権利認証を可能にします。NFRMを利用することで、個人が保有する携帯電話内の権利情報を保守でき、またコンテンツの不正利用や違法複製を防止することができるのです。(※詳細は下記を参照)

フェイスでは、これら次世代に先駆ける配信プラットフォーム技術の開発を若手社員が中心となって、プロジェクト単位で担当し、それぞれの専門能力を活かし、発展させています。ビジネスの着想をカタチにしていく、こうした社員ひとりひとりの専門性や組織としての総合力こそがフェイスが有する「可能性」なのです。

さらに、当期はインテルおよび吉本興業と共同でNFRMサービスの実証実験を開始。2007年内の商業化を目指しており、ハイクオリティなコンテンツの流通を一層活発化させ、様々な業界に新たなビジネスの機会を提供していきます。将来的にはPCに加え、各種デジタル家電や車載AVシステムなどにもNFRMサービスを拡充していく計画です。

もちろんフェイスとしても、今後NFRMをグループ横断的なシステムとしてより戦略的に活用。そのライセンスによる収益とともに、オリジナルコンテンツの配信などにおいて大きなアドバンテージとなるものと考えています。



企画推進室 NFRM開発チームの主なメンバー

写真左から、荒川雷太、阿部有紀子、藤井一暢、中嶋洋介(プロジェクトマネージャー)、古磯未紗

## NFRMとは?



### ケータイでコンテンツをセレクト

携帯電話で、好きなときに映像などのコンテンツを検索し、権利を購入します。



### ケータイをパソコンに“かざす”

携帯電話で視聴することもできますが、より大きな画面でご覧いただけます。



### PCで認証、大きな画面で楽しむ

ブロードバンド接続されたPCやデジタル家電などに携帯電話を“かざす”だけで購入した権利の認証が可能。より大きな画面でハイクオリティ映像を楽しむことができます。

## 配信プラットフォーム事業の拡大を目指し、テクノロジーリソースを集約した新会社を設立

2007年5月、株式会社フェイス・ビズを設立いたしました。同社は、フェイス・グループが培ってきたソフトウェア開発、ネットワークシステムの構築・運用などの配信プラットフォーム技術に関するノウハウをベースに、コンテンツ権利認証技術、音楽配信技術、動画配信システム、ECソリューション、画像・音声認識技術をはじめとした技術プラットフォームを開発・発展させ、グループ内外へ提供していくことを目的としています。また、これらの技術を利用した独自のサービスの企画・展開を行うとともに、企画立案や企業提携までもを含めた事業化を展開していくことを目標としています。

### フェイス・ビズの事業

#### NFRM (権利認証技術)

NFRM (権利認証技術) およびコンテンツ配信プラットフォームを提供します。

#### EC (電子商取引)

B2Bを主とし、会員向け、社販、ポイント交換サービスなどクロスドマーケットへの企画・プラットフォーム提供を推進します。

#### 動画配信

携帯電話などの通信の高速化にともない今後需要が高まる動画視聴サービスなどへの配信プラットフォームを提供します。

#### 画像・音声認識

画像・音声認識技術を利用する新たなサービスの企画運営を推進し、コンテンツプロバイダなどへのシステム提供を通じたビジネスを展開します。

Faith.biz

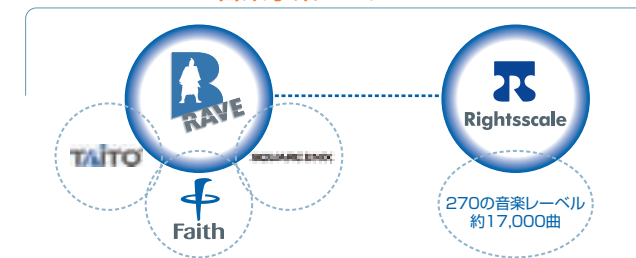
## 音楽配信の新しい「しくみ」創りを始めとする、次世代の音楽事業プロデュースに向けた体制を整備

2006年4月、フェイスとタイトー、スクウェア・エニックスとの提携、共同出資により、デジタル流通チャンネルの拡大を目指す株式会社ブレイブを設立いたしました。また同社は、同年12月、270の音楽レーベルと契約し、約17,000曲を国内外のiTunesStoreなどPCおよび携帯端末向けプロバイダに配信する株式会社ライセンススケールの全発行済株式を取得、子会社化しました。これによりブレイブの音楽配信事業は一層拡大、同時に音楽レーベル事業



JUNO REACTOR

もスタートさせました。また国内外で音楽コミュニティーの企画開発も進めるなど、次世代の音楽事業プロデュースに取り組んでいます。



連結貸借対照表

科目	前連結会計年度 2006年3月31日現在	当連結会計年度 2007年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>14,005,756</b>	<b>20,030,513</b>
現金及び預金	7,534,815	8,217,827
受取手形及び売掛金	4,768,010	6,929,263
有価証券	364,619	347,644
たな卸資産	39,905	636,880
未収還付法人税等	—	865,236
繰延税金資産	808,951	1,350,004
その他	571,683	1,889,891
貸倒引当金	△82,229	△206,234
<b>固定資産</b>	<b>17,590,023</b>	<b>19,403,485</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,228,080</b>	<b>1,031,386</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>4,597,545</b>	<b>11,180,274</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>11,764,397</b>	<b>7,191,823</b>
投資有価証券	9,560,144	5,273,058
長期貸付金	1,560	180,045
敷金	1,144,546	1,440,442
その他	1,178,102	1,037,395
貸倒引当金	△119,956	△739,117
<b>繰延資産</b>	<b>—</b>	<b>8,161</b>
<b>資産合計</b>	<b>31,595,780</b>	<b>39,442,160</b>

(注) 前連結会計年度の表示につきましては、一部組み替えを行い、当連結会計年度の表示に揃えております。

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2006年3月31日現在	当連結会計年度 2007年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>9,205,089</b>	<b>15,483,265</b>
支払手形及び買掛金	3,349,235	4,648,274
短期借入金	86,969	5,215,768
未払法人税等	826,587	580,242
カード利用原価引当金	2,323,140	2,511,846
ポイント引当金	697,582	553,247
賞与引当金	77,316	129,177
その他	1,844,258	1,844,707
<b>固定負債</b>	<b>2,421,697</b>	<b>8,044,052</b>
長期借入金	—	6,119,854
繰延税金負債	2,235,777	535,501
退職給付引当金	27,252	35,535
役員退職慰労引当金	121,134	—
債務保証損失引当金	—	1,298,550
その他	37,532	54,611
<b>負債合計</b>	<b>11,626,786</b>	<b>23,527,318</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>15,980,834</b>	<b>13,848,687</b>
資本金	3,218,000	3,218,000
資本剰余金	3,708,355	3,708,355
利益剰余金	9,408,748	7,276,602
自己株式	△354,269	△354,269
<b>評価・換算差額等</b>	<b>3,645,145</b>	<b>1,385,858</b>
新株予約権	487	487
少数株主持分	342,525	679,808
<b>純資産合計</b>	<b>19,968,993</b>	<b>15,914,842</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>31,595,780</b>	<b>39,442,160</b>

連結損益計算書

科目	前連結会計年度 2005年4月1日～ 2006年3月31日	当連結会計年度 2006年4月1日～ 2007年3月31日
<b>売上高</b>	<b>30,040,166</b>	<b>44,152,751</b>
売上原価	20,308,957	31,215,018
<b>売上総利益</b>	<b>9,731,209</b>	<b>12,937,733</b>
販売費及び一般管理費	6,339,781	11,877,157
<b>営業利益</b>	<b>3,391,428</b>	<b>1,060,576</b>
営業外収益	221,436	132,383
営業外費用	157,805	339,293
<b>経常利益</b>	<b>3,455,058</b>	<b>853,667</b>
特別利益	234,603	3,713,124
特別損失	179,919	6,277,532
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	3,509,742	△1,710,741
法人税、住民税及び事業税	2,132,141	752,730
法人税等調整額	33,938	△733,791
少数株主利益又は損失(△)	△94,631	153,333
<b>当期純利益又は純損失(△)</b>	<b>1,438,293</b>	<b>△1,883,013</b>

(単位:千円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前連結会計年度 2005年4月1日～ 2006年3月31日	当連結会計年度 2006年4月1日～ 2007年3月31日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,970,659</b>	<b>1,371,764</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,041,748</b>	<b>△13,978,639</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△236,192</b>	<b>12,739,964</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	216,450	59,799
現金及び現金同等物の増加額	909,168	192,889
現金及び現金同等物の期首残高	6,770,266	7,679,435
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	193,146
現金及び現金同等物の期末残高	7,679,435	8,065,471

(単位:千円)

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2006年4月1日～2007年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計	新株引当権		
<b>2006年3月31日 残高</b>	3,218,000	3,708,355	9,408,748	△354,269	15,980,834	3,401,193	243,952	3,645,145	487	342,525	19,968,993
<b>連結会計年度中の変動額</b>											
剰余金の配当(注)			△59,521		△59,521						△59,521
剰余金の配当			△59,521		△59,521						△59,521
役員賞与(注)			△39,000		△39,000						△39,000
当期純損失			△1,883,013		△1,883,013						△1,883,013
在外子会社の会計処理変更に伴う減少額			△91,091		△91,091						△91,091
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△2,205,326	△53,960	△2,259,287		337,282	△1,922,004
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	—	—	△2,132,146	—	△2,132,146	△2,205,326	△53,960	△2,259,287	—	337,282	△4,054,151
<b>2007年3月31日 残高</b>	3,218,000	3,708,355	7,276,602	△354,269	13,848,687	1,195,867	189,991	1,385,858	487	679,808	15,914,842

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

株式状況

(2007年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,990,000株
発行済株式総数	1,196,000株
株主数	17,989名

大株主

(2007年3月31日現在)

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
平澤 創	466,040	39.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	55,563	4.66
シービーニューヨークインテルキャピタルコーポレーション	31,600	2.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,807	2.50
ザチーフマンハッタンバンクエヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	27,565	2.31
吉本興業株式会社	20,687	1.73
田中 治雄	13,067	1.09
クレジットスイスファーストボストンヨーロッパ ビービーセキュアエヌティノトリティクライアント	10,500	0.88
大阪中小企業投資育成株式会社	9,800	0.82
株式会社ドコモ・ドットコム	9,000	0.75

取締役および監査役

(2007年6月28日現在)

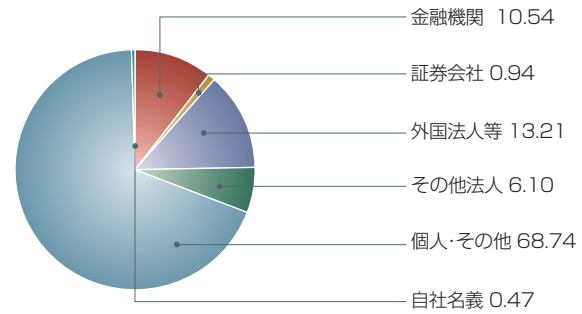
代表取締役社長	平澤 創
取締役	踊 契 三
取締役	佐 伯 浩 二
取締役	小清水 勝
取締役(非常勤)	樋口 泰 行 (マイクロソフト株式会社代表執行役員兼COO)
常勤監査役	渡 邊 章
常勤監査役	清 水 章 (公認会計士)
監査役	富 岡 康 真 (テレック総合研究所主任研究員)
監査役	菅 谷 貴 子 (弁護士)

※樋口泰行は、社外取締役であります。  
※監査役全員は、社外監査役であります。

所有者別分布状況 (%)

(発行済株式総数 1,196,000株)

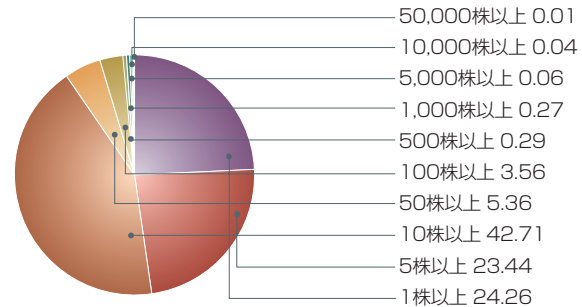
(2007年3月31日現在)



所有株数別分布状況 (%)

(株主数 17,989名)

(2007年3月31日現在)



アドバイザー・ボードを構成する社外有識者

(2007年5月30日現在)

青木 利晴	株式会社NTTデータ 相談役 株式会社NTTデータ 元代表取締役社長 日本電信電話株式会社 元代表取締役副社長
南部 靖之	株式会社パナソニック 代表取締役社長・グループ代表
堀 裕	堀総合法律事務所 代表 社会保険庁・文部科学省大臣官房総務課・ 日本郵政公社(貯金事業部等)顧問弁護士 みずほグループ各社 顧問弁護士
山本 恵朗	財団法人松翁会 理事長 株式会社みずほホールディングス 元取締役会長 株式会社富士銀行 元頭取

次なる飛躍に向け、積極的に新サービスを展開

配信プラットフォーム事業

05.29

日本音響学会  
「技術開発賞」を受賞

フェイスが開発した「携帯電話における着信メロディ配信技術」が、音響工学分野における機器・工業技術の進展に著しい貢献をしたとして、第14回の同賞を受賞しました。

12.11

電子マネー発行・決済システムを  
HMVジャパンに提供

ウェブマネーが特許を有する「電子マネー発行・決済システム」をHMVジャパンに技術提供、HMV DIGITALで利用できる「音楽配信用カード」の発行支援で提携関係を結びました。



02.16

インテル、吉本興業と  
協業関係を強化

「デジタルコンテンツを流通するしくみ」の創造を目指し、事業協力を進めてきた3社は、さらに関係を強化。フェイスはインテルキャピタルと吉本興業からの出資を受けました。

2006.04

04.25

セブイレブンで  
WebMoney販売開始

04.28

プレイ  
設立

05.31

着信メロディ大手、  
ギガの営業権取得

有料会員300万人を有するギガネットワークスカンパニーの営業権を取得し、グループ化。従来の着信メロディに加え、リッチコンテンツを含む次世代サービスの提供を目指しています。

07.13

米国InterVideo社と業務提携

07.27

クロスワープと業務提携し、  
オンラインゲーム市場での  
成功報酬型(アフィリエイト)  
広告事業へ進出

08.01

映像プロデュース・  
配信事業に進出



コンテンツの利用環境の多様化に応え、新しい映像流通の「しくみ」を構築する会社、デスベラードを新設。クリエイターの才能を引き出し、ヒットを継続して生み出す新しいビジネスモデルを追求します。

03.06

NFRM実証実験開始

12.07

ライセンスール買取

03.30

吉本グループROJAMとの  
提携

12.18

医療・美容・健康  
情報提供サービスを拡充

美容・健康・アンチエイジングが気になる女性をサポートするiモードサイト「漢方美人堂」を開始。この他、フェイスは法人向け医療情報サービス「ポケットQQ」を展開しています。



コンテンツ制作・プロデュース事業/コンテンツ配信事業